

ペット保険充実

※1歳のトイプードルの保険に新規加入した場合の保険料。アニコム損保とSBIいきいき少短は7割補償で、免責金額なしの場合

会社名	総合補償型		手術特化型
	アニコム損保	SBIいきいき少短	アイペット損保
商品名	どうぶつ健保 ふあみりい	SBIいきいき少短 のペット保険	プリズムコール (プレミアムオレンジ プランII) うちの子ライト
補償対象	通院・入院・手術		手術・手術と 連続した入院
補償割合	7割/5割	7割/5割	10割 9割
特徴	窓口精算や LINEでの保 険金請求が できる	11歳11か月まで 新規加入がで きる。ウェブで申し込 むと2年目以降も 保険料割引	かかった費用の10割 (通院は上限5000円 まで)を補償。小動物 やインコなども対象
犬の月額 保険料の例	3420円	2100円	3150円 990円

ペット保険は補償の対象を
よく調べて選びたい

犬や猫など、ペットの病気やけがに備えるペット保険が充実してきている。万一の場合は高額の治療費が必要になるケースもある。20日からは動物愛護週間も始まる。飼っている人も、これから飼おうと考えている人も、ペット保険についても検討しておきたい。

動物が病気やけがをした際に動物病院にかかると、治療費は全額飼い主の自己負担となる。骨折や異物をのみ込んだ場合の手術には数十万円の費用がかかるケースもある。

国内では10年ほど前から広がり始めた。現在は損害保険会社4社のほか、保険金額が少額で、契約期間に制約がある少額短期保険会社1社が扱っている。

ペットフード協会の2017年の調査によると、犬・猫を合わせた飼育頭数は約1800万頭。飼い主の高齢化などに伴い、特に犬は減少傾向にある。一方、ペット保険の契約数(17年)

は前年比15%増の147万件(富士経済調べ)だった。ペット保険は、1年単位の契約し、その後は更新していく仕組み。商品によって異なるが、新規加入でき

必要な補償は何かニヤ ■ 見極めが大事だワン

る年齢に上限がある。この年齢に達する前に加入していれば、終身更新できる商品が多い。

■ 通院まで手厚く

通院も含めて対象とする「総合補償型」では、かかった治療費に対する保険金の補償割合が7割(自己負担が3割)か5割(同5割)が一般的だ。利用回数や金額に制限がある場合は、その限度を超えて支払いを受けることは出来ない。

たとえば「補償割合7割、1日あたり1万4000円が限度」の保険に加入している場合、1回の通院で3万円払うと、1万4000円の保険金が支払われる。かかった費用が1万円なら7000円が支払われる。

アニコム損害保険の総合補償型の保険「どうぶつ健保ふあみりい」は、提携する病院では、保険証を提示すれば保険金を差し引いた金額を支払うだけで済む。17年からは無料通信アプリ「LINE」で、領収書を撮影して送り、保険金を請求できるサービスも始

めた。SBIいきいき少額短期

保険の「SBIいきいき少短のペット保険」は11歳11か月まで新規加入できる。他社と比べて上限年齢を高め設定した。

日本アニマル倶楽部の「プリズムコール」は、補償割合100%が特徴だ。1日あたり5000円が限度なので、こまめに通院する場合には向いている。

■ 入院・手術に備え

補償対象を手術や入院に限る保険もある。通院は対象外になるものの、保険料を低めに抑えられる。

アイペット損保の「うちの子ライト」は、手術と手術を含む入院にかかった費用の90%を補償する。普段の通院費用より手術時の高額な出費に備えたい、という飼い主に向いている。

武蔵野の森動物病院(東京都西東京市)の犬塚知子院長は「たとえば柴犬は皮膚病になる場合が多いなど、ペットによってかかりやすい病気や必要になる治療は異なります。高齢になるとかかりやすくなる病気を調べたうえで保険を選ぶといいでしょう」と話している。



「家計の知恵」編集室
kakei@yomiuri.com